

長崎ジオツアー巡検記事

第258回 (平成28年11月20日)

諫早市唐比低地と有喜海岸の火山岩類

地形図 1/25,000 「諫早南部」「愛野」

阪口和則 (長崎県地学会)

寺井邦久 (県立島原高校)

集合9:30 とれとれ旬屋 参加者11名

①10:00 唐比礫浜海岸に到着

海岸に降りて、礫浜の発達する様子を観察する。礫種は主に有喜火山に由来する、輝石安山岩で30~50cm大の礫が多数ある。

東を遠望すると、千々石断層が唐比地域まで伸びてくる様子を見ることができた。

②10:30 唐比湿地

唐比ネイチャーセンターの駐車場に車を止め、唐比湿地を観察する。

湿地帯に入ると、地面がふわふわと揺れ、ジャンプするとその振動が周囲に伝わる。

③11:30 ネイチャーセンター観察棟で室内ミーティング。展示試料などを使い唐比湿地の成因について討論した。

展示試料中のボーリング試料。

I	0.55m	泥炭層
	3.80~3.82m	火山灰 3200±165BP
	3.82~11.02m	泥炭 5400±115BP
層	11.70~11.75m	アカホヤ火山灰 6300
II	11.75~15.17m	海成粘土層 貝殻
		縄文海進 7000~6000年
III	15.17~26.20m	中粒~粗粒砂 海成
		堆積物 円磨度高く淘汰良好
IV	26.20~31.79m	灰白色均質塊状粘土
		微化石から高木瀬層、下釜層、長洲層と対比 (13万年) 海成粘土層←貝殻
層	30.15~30.20m	に巻貝 (4年以上)

V 31.79~34.50m 粘土、泥炭 (32.58~32.60
33.15~33.17) 4万年以上の泥炭に植物原形なし。23~13万年前の

層 河口氾濫原

VI 34.50~36.05m 灰白色火山灰
Ata-Th (阿多-鳥浜テフラ 23~25万年)

層 輝石、角閃石、黒雲母

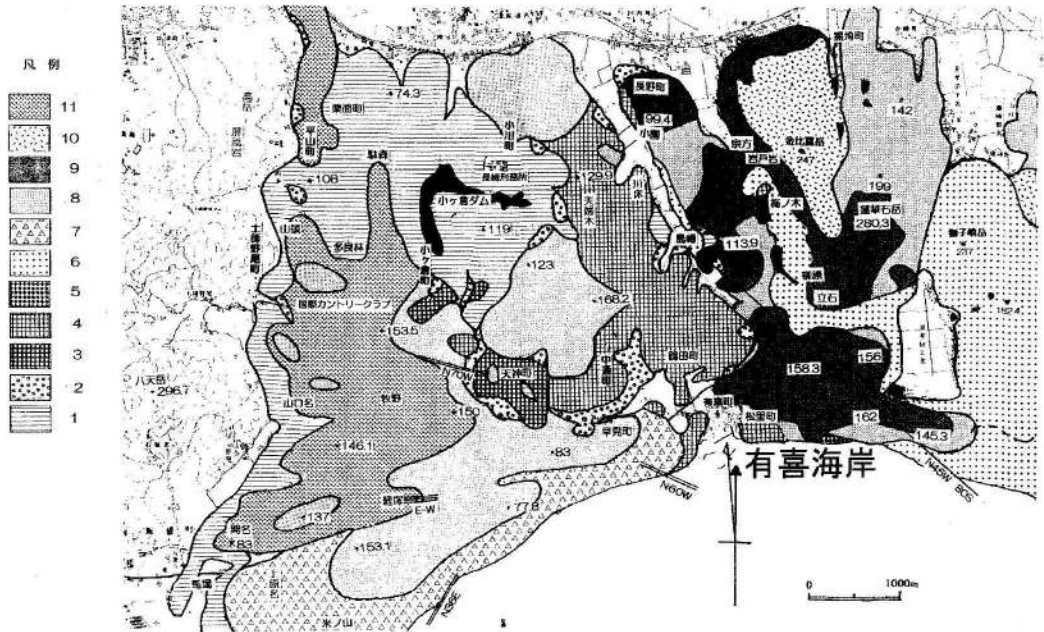
VII 36.05~37.65m 粘土質礫 崩壊性堆積物

VIII 37.65~40m 安山岩質集塊岩

これら資料と、断層による沈降、海水準変動を考慮しながら、県央地区の地殻変動について討論した。11:30~12:20 昼食

④12:40~15:00諫早市有喜町の有喜海岸に移動。有喜海岸では千々石断層の延長と見られる断層群があるが、一部は正断層で、一部は逆断層が混在している。

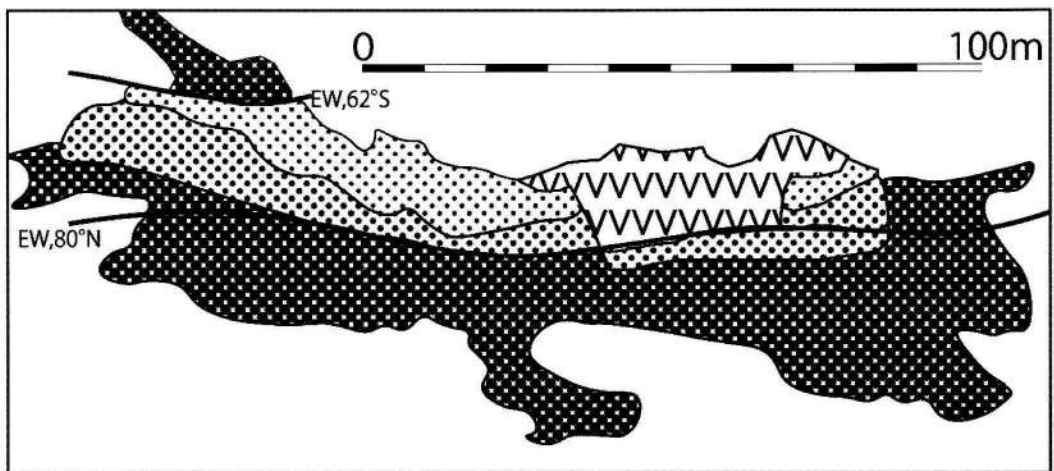
また有喜火山の「有喜普通輝石安山岩」(阪口2016)の基底部が観察できる。最下位には黒色の玄武岩質安山岩があり、その上位に粒径8mm前後の輝石の結晶を含む赤褐色の火山角礫岩~凝灰角礫岩3m、その上位に同様の赤褐色凝灰岩層2mが重なる。これらの上位に接触部にアグロメライトを挟み、有喜普通輝石安山岩がのる。この溶岩は下位で岩脈状に上位で溶岩流の形状を呈する。この場所では輝石の大結晶を拾えた。



有喜・早見地区地質図 (2016 阪口和剛 未公表)

1. 古第三系
2. 有喜凝灰質礫岩層
3. 天神玄武岩
4. 有喜普通輝石安山岩
5. 扇頭角閃石安山岩
6. 獅子滝尾複輝石安山岩
7. 早見凝灰角礫岩
8. 早見複輝石安山岩溶岩
9. 基華石活角閃石複輝石安山岩
10. 金比羅岳赤凝輝石角閃石安山岩
11. 牧野火山扇扇状地堆積物

図1 阪口 (2016) 未公表試料に一部加筆







-  巨晶輝石安山岩溶岩
-  巨晶輝石安山岩質凝灰角礫岩
-  巨晶輝石安山岩質火山角礫岩
-  玄武岩質安山岩

図2 寺井 (2017) 有喜海岸の地質 (未公表試料)、阪口 (2016) の有喜海岸部を拡大